



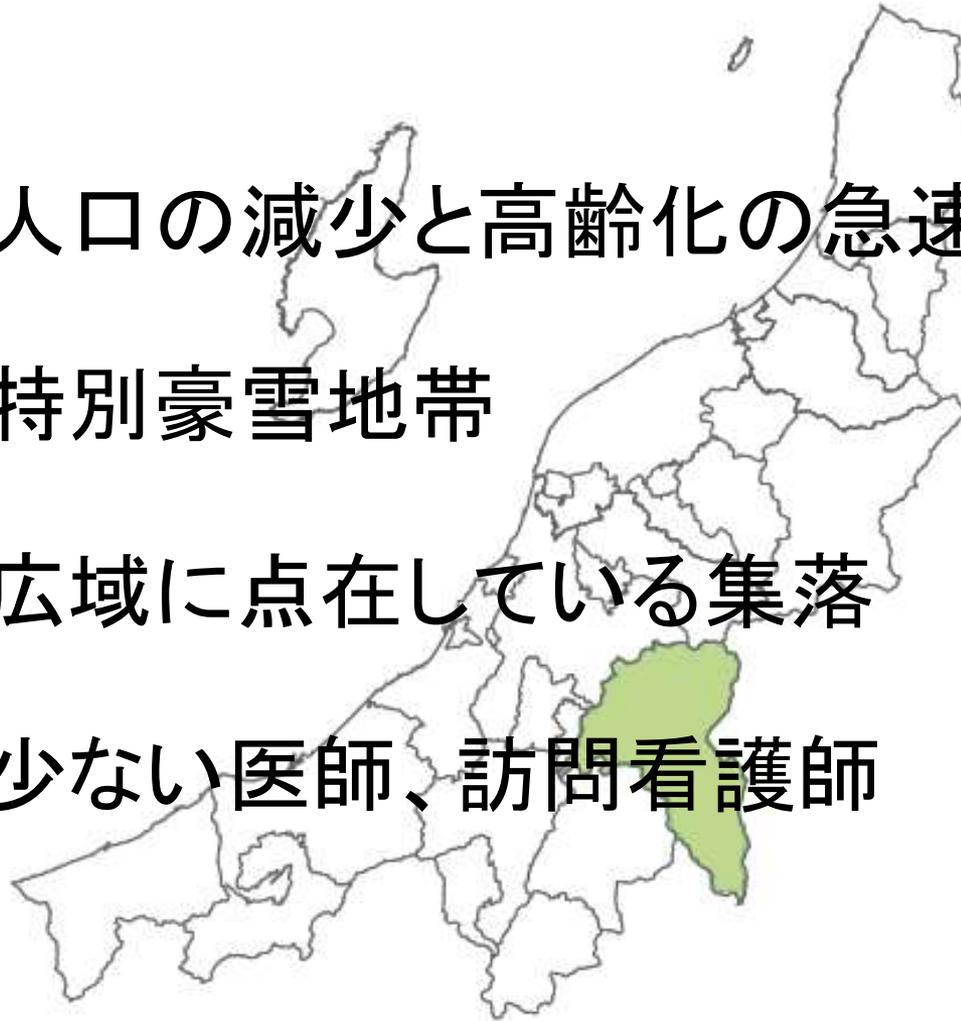
平成24年度在宅医療連携拠点 事業成果報告会～取組み発表～ 魚沼市立守門診療所の取組み



平成25年3月23日(土)13:00～17:00厚生労働省講堂

課題の背景

- ❑ 人口の減少と高齢化の急速な進行
- ❑ 特別豪雪地帯
- ❑ 広域に点在している集落
- ❑ 少ない医師、訪問看護師





抽出された課題

- 専門職種間・施設間の相互理解の不足
- 住民が自らの健康（医療）や介護について学ぶ機会の不足
- 在宅医療、訪問看護が地域全体に展開できない
- 地域全体としての災害時の要援護者支援体制が不十分



抽出された課題に対する活動計画

- 研修・教育・人材育成
 - 専門職種間連携教育(IPE)
 - 住民への普及啓発
- 医療従事者の負担の軽減
 - 在宅看取り支援体制の構築
 - 情報共有、連携ツールの開発
- 災害時の対策
 - 要援護者情報共有システムの開発
 - 防災マニュアルの作成



研修/教育/人材育成

■ 地域医療魚沼学校への協力・参加

● RIPE講座(地域内専門職種間教育)

- ✚ 共通言語を増やす「楽語い講座」
- ✚ 想いを重ねる「楽想講座」
- ✚ 協働作業を増やす「楽門講座」

● 住民の医療資源化支援事業の推進

- ✚ オープンスクール(住民健康講座)
- ✚ ナイトスクール(出前講座・座談会)

住民向けフォーラム 共催

講演会「平穏死という選択」





■ 魚沼市地域包括支援センターとの合同開催

- 訪問介護・通所介護・短期入所区分合同研修会
 - ✦ 講演「在宅医療に必要な緩和ケアの基礎知識を学ぶ」
- 地域ケア会議 医療・介護連携研修会/懇親会
 - ✦ 講演会「『命の最期を生きる』～多職種協働による看取り」
 - ✦ 研修会 実践報告と「終末期ケアにおける連携の実際」
 - ✦ グループワーク

■ 小千谷市魚沼市医師会研修会の後援、開催協力

- 講演会/懇親会
 - ✦ 講演「法医学から見た人間の一生と寿命」





■ 多職種合同課題検討会

医療と介護の連携、暮らしを支えるための課題と解決のための仕組みを考えるグループワーク

- 災害時
- 医療依存度の高い人
- 高齢者の急性期治療後のADL回復
- 単身高齢者、高齢夫婦、高齢の親とその子供世帯
- 働く世代の親の介護
- 看取り

■ 多職種合同学習会 開催

口から食べられなくなった時
～本人・家族の思いと暮らしを支える地域～

- ミニレクチャー「AHNの基本的知識を知る」
- 講演「家族による代理意思決定 その心理プロセス」
- テーブル・フロアディスカッション

「本人、家族の思いにどう寄り添えるか

医療、介護の立場から」





ATBH VI

サテライトシンポジウム in 魚沼



- 一般公開講座 「魚沼で医療を育てる」
 - ✚ レクチャー
 - 1 「在宅医療に関するGISの利用について」
 - 2 「住民が守る医療と健康」
 - 3 「地域医療の現場で医学生が学ぶこと」



- 国際学術集会

- ✚ ポスターセッション

「高齢社会でどのように専門職連携や
その教育を行っているか」

イギリスからのゲストスピーカーから講演
「これからのIPEとIPWについて」

- ✚ Short speech & Table discussion





在宅医療従事者の負担の軽減

在宅看取り支援制度の構築

- 主治医不在時、代理の医師が看取りを行う
 - ✦ 複数の事業所の主治医、協力医師、訪問看護師の連携
 - ✦ 患者宅へのナビゲーション
 - ✦ 看取りに対する住民の理解の促進
 - ✦ 看取りに関連する多職種、多機関の基礎的知識の共有



情報共有ツール・ガイドの開発

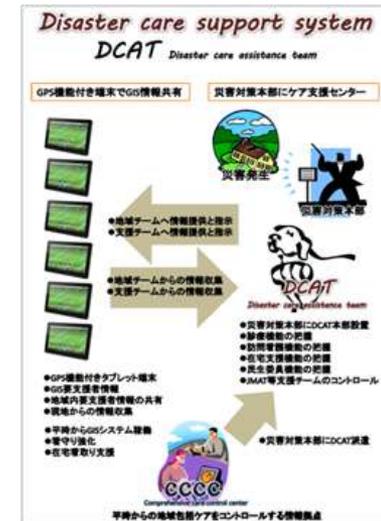
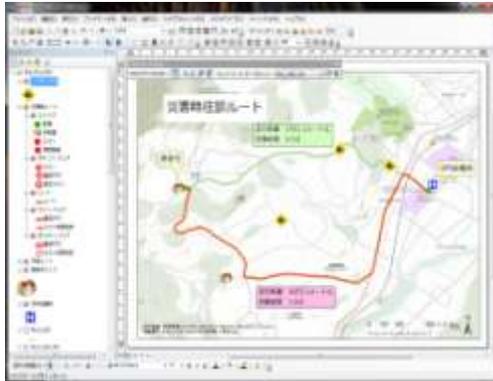
- 魚沼地域医療情報ネットワークの構築
 - ✦ 公立医療機関を中心に医療情報を共有するネットワーク作り
- 連携促進のためのツールの開発
 - ✦ 連携ガイドブックの作成



災害時の対策

要援護者情報共有システムの開発

- GIS(地理情報システム)を活用した災害時の情報共有ツールの開発



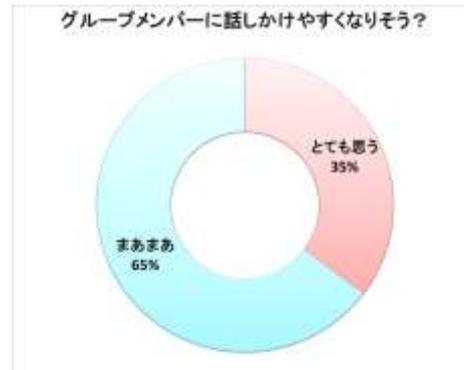
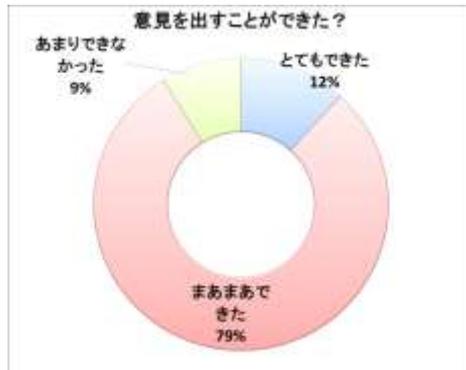
防災マニュアルの作成

- 市役所担当部署との合同作成



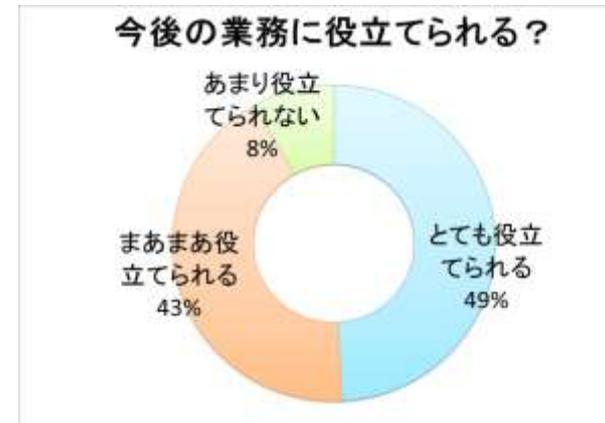
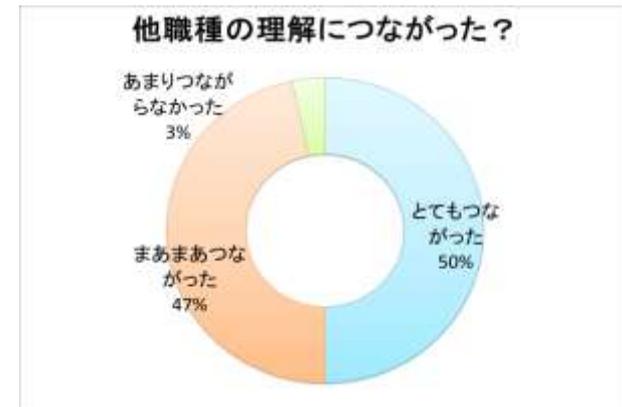
多職種合同課題検討会アンケート(参加者42名/回収率85%)

- 他職種、他事業所の経験や事例なども聞いて、同じように困っていることも聞いた。気軽に話しかけや、意見などもGWを重ねてできるようになった。
- 本日ディスカッションをしたその後をどうしていくのか？を考えることが課題と思える。具体的なアイデアを誰が、いつ、どこで、誰に対して、何を、どのように実現していくのかが重要だと思う。



小千谷市魚沼市医師会研修会アンケート(参加者79名/回収率77%)

- 看取り場面における、医療、福祉(介護)、消防、警察、行政の役割や視点の相互理解や連携を図るための第一歩となった。





区分合同研修会アンケート (参加者152名/回収率84%)

- 在宅緩和ケア自体を初めて知った
- 緩和ケアの重要性、地域全体で支えあうことの大切さを理解できた
- 痛みを緩和する医療用麻薬があり、管理できることが分かった
- 在宅医療に不安があったが前向きに考えることができた
- 今後在宅緩和ケアで自宅で安心して過ごし、看取りができるよう支援したい

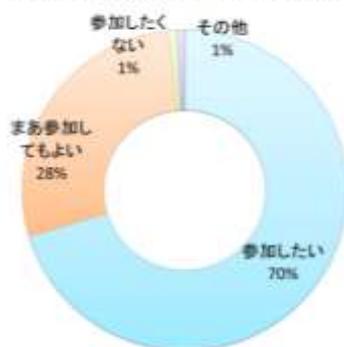
医療・介護連携研修会アンケート (参加者152名/回収率84%)

- 事例発表は大変参考になった。この研修会は介護に関する地域のコンセンサス、意識統一(共有化)が推進できればベターだと思う。
- 看取りについて、事例をきっかけに、この地域の看取りの体制について考えることができた
- とにかく関わりのある人たちが同じ方向で進めるようにしていきたい

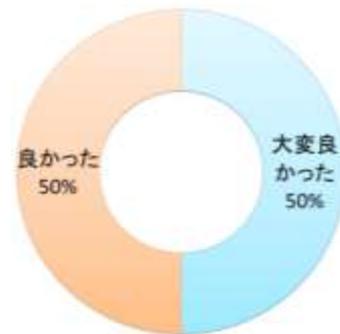
内容について



今後もこの様な学習会に参加したい？



内容について



GWで発言できた？





多職種合同学習会アンケート (参加者84名/回収率86%)

- AHNの基礎知識を知ることができた
- 決定する前の説明や、傾聴の大切さ、本人の意思の読み取りの大切さ等痛感した
- (略)プロセスを含め、どの様にサポートしていけるか、家族の在り方、当事者の心の準備教育という時間(住民向けて)も大切。
- (略)DRによるICだけでなく、家族と皆で(NS、CWetc.)で考える必要性が提示されたことは素晴らしい進歩(略)

地域における在宅ケア体制の充実に向けた多職種連携の実態把握調査より(配布152/回収率76.3%)日本赤十字看護大学共同調査

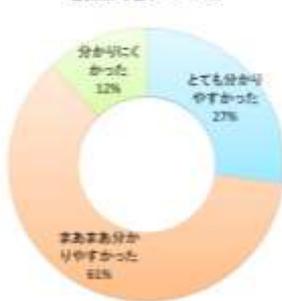
介護・福祉職について(他地域との比較)

- 医療職との連携の困難さの感じ方が少ない
- 医療職に介護・福祉職の意見や考えが尊重されていると感じている
- 多職種によりケア方針や計画の意見交換がされている
- 介護・福祉職と医療職間で話し合う機会がある
- 多職種と何でも聞ける関係を築いている
- 利用者、家族の変化について即座に他職種に伝えられている
- 普段から定期的に多職種との顔合わせの機会を持っている

ミニレクチャー 内容



講演内容について



テーブルディスカッション内容について





まとめ

- 本拠点が属する魚沼地域では、高度医療から身近な医療まで、地域で完結するための医療再編の渦中にあり、医療・福祉の専門職だけでなく住民も関心も高まっている。

地域全体が医療・介護に関心を持つよう機運を捉えながら、行政やコミュニティと密着した地道な啓発活動を継続することが必要である。

- 地域の実情に合った総合的な仕組みや企画
- 主要な関係機関、部署担当者との情報共有、連携
- 丁寧な説明(足を運んで、顔を合わせて)

- うまくいかなかった点

- 山間地での在宅医療に力を発揮すると考える、携帯用タブレット端末やテレビ電話などの購入が本事業では認められないこと